



News Letter

No. 124

The Iida City Institute of Historical Research

2023年6月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0803

長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iih@city.iida.nagano.jp



飯田市歴史研究所2023年度研究計画

歴史研究所の調査研究活動は、複数の研究員が研究組織を構成して諸課題に取り組む基礎共同研究と、各研究員が個々の課題に取り組む基礎研究によって進められています。2023年度は、以下の体制で調査研究を行います。

1. 基礎共同研究

基盤調査：日常的・永続的な調査・研究事業		単位地域研究：市域の自治区域（旧町村）を対象に取り組む総合的な調査・研究	
史料所在状況調査	羽田 真也	飯田・上飯田	多和田 雅保
史料現状記録調査	羽田 真也	座光寺	羽田 真也
オーラルヒストリー調査	竹村 雄次	川路	羽田 真也
歴史的建造物調査	福村 任生	山本	竹村 雄次
歴史的公文書調査	竹村 雄次、前澤 健、羽田 真也	三穂	前澤 健
在外史料調査	吉田 伸之		
課題研究：数年間をかけて特定のテーマに取り組む研究			
地方小都市の近代化過程における学校を中核とした文化的ネットワーク構築		多和田 真理子	
山里の分節的把握 —阿智村清内路を素材として—		吉田 伸之	
南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究		吉田 ゆり子	

2. 基礎研究

所長	吉田 伸之	「小規模伝統都市・飯田の社会＝空間構造6」
顧問研究員	大串 潤児	「村と戦争」の総合的研究
	加藤 陽子	森本州平日記を読む
	田島 公	国指定史跡・恒川官衙遺跡の保存・活用を促進するための地方官衙（「評衙」「郡衙」）と古代寺院（「評寺」「郡寺」「定額寺」）の研究
	多和田 雅保	近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究
	多和田 真理子	小学校の設置運営と地域の関わり —日誌類の分析を中心に—
	安岡 健一	飯田下伊那の農協生活活動Ⅱ
	吉田 ゆり子	下伊那地域における身分的周縁に関する研究
研究員	羽田 真也	近世信州伊那地域における村社会の構造 —座光寺村を素材として—
	羽田 真也	近世大平の社会構造と大平街道をめぐる流通
特任研究員	伊坪 達郎	近世飯田町と周辺農村に関する基礎的研究
	竹村 雄次	幕末明治大正期、下伊那の結社の活動とその展開
	前澤 健	樽木役の負担に関わる諸問題
調査研究員	太田 仙一	飯田・下伊那の経済・経営史的研究
	齊藤 俊江	下伊那の満洲移民 —河野分村について—
	齊藤 俊江	飯田遊廓の研究 —娼妓周旋業者と都々逸の研究—
	竹ノ内 雅人	飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究
	田中 雅孝	養蚕地帯の地域社会構造と主体形成
	千葉 拓真	近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究
	原 英章	満蒙開拓青少年義勇軍の送出についての史的研究 —学校教育や役場等現場の関わりを中心に—
	樋口 貴彦	山村の木材利用の手法に関する研究
	福村 任生	飯田下伊那における歴史的景観構造に関する研究
	本島 和人	満洲移民送出及び引揚げに至る下伊那の社会と経済
	本島 和人	満洲移民参加者の個人日記の翻刻と解説
市民研究員	栗谷 真寿美	青年会の研究 —自主化運動の過程とその周辺—
	上河内 陽子	飯田下伊那の戦時を読み解く —川路の軍事郵便資料をおもな素材として—
	坂本 広徳	近世清内路の社会構造
	清水 迪夫	戦前下伊那労働運動史
	林 武史	飯田の街角の文字デザインと歴史を見つめる
	壬生 雅穂	ミチューリン会で菊池幸子が作り出した「場」

新スタッフ紹介



いつぼ たつろう

伊坪 達郎 特任研究員

1950年 飯田市山本生まれ
専門：近世史

平成23年（2011）4月～28年（2016）3月まで、飯田市歴史研究所でお世話になりました。それから令和5年（2023）3月まで松川町資料館にお世話になり、4月1日から飯田市歴史研究所に戻ってきました。最初の5年間は飯田市役所上郷支所2階で仕事をしていたのですが、今は県の旧保育園の所へ研究所が移っていて、新たな気持ちで研究や仕事に向かうことになります。それぞれの部屋にある史料類・写真類・書籍類など見て、今後の研究や仕事の方向を定めていきたいと思います。下伊那誌編纂会にも勤めて、「下伊那史第9巻」を作成していますので、関連史料なども探したいと思います。

飯田市歴史研究所や関連施設には多くの文書史料が保管されています。①飯田市役所の保管期限がきた市行政記録文書 ②いくつかの支所の行政記録文書 ③市内小学校の学校記録文書 ④諸団体・諸施設の記録文書 ⑤個人の家からの寄贈文書・寄託文書 ⑥諸史料の写真記録などです。今まで多くの史料に対応してきましたが、このところ個人の家はもちろん公共施設などでも、今後の保管に困っている所が増加しています。これをどうしたらいいのか、美術博物館・飯田市中心図書館などにある史料類とのかかわりも考えていかなくてはなりません。また史料をただ保管するだけでなく、地域の今後の方向を考えるためや、個人が調べて自家や地域にどう生かしていくか考えるため、活用できるようにしなくてはなりません。私一人で考えることは難しいので、多くの方々と考える機会ができるといいなと思っています。また保管の施設をどのようなするかを、教育委員会だけでなく、市役所全体で考えていくように働きかけていけるといいなと思っています。

まえざわ たけし

前澤 健 特任研究員

1962年 岐阜県高山市生まれ
専門：近世史

この4月より特任研究員としてお世話になっています。これまでも調査研究員（非常勤）として歴史研究所の活動に関わってきていましたが、気持ちを新たに研究や活動に取り組んでいきたいと考えています。

私は、飯田下伊那の近世（江戸時代）を中心に、これまでさまざまな場で学んできました。現在、3つの課題を中心に研究を進めています。一つ目は、^{くれき}樽木の問題です。樽木とは、榎をみかん割りにした木材のことです。近世初頭の伊那郡は、樽木の一大産地でそこに住む人々には「樽木役」が課されました。幕府は、樽木を得るために伊那郡をどのように支配したのか？ それに対し人々はどのように対応したのか？ そして、その支配は、伊那郡、特に飯田下伊那にどのような影響を与えたのか？ などなど、調べれば調べるほどに知りたいことが広がっています。2つめは、立石柿の問題です。市田柿の前に江戸のブランドとなった立石柿（串柿）。果物王国下伊那の源流ともいえるものです。私の家は、その立石にあるので、この研究は、地区のルーツを知る意味を持っており、ずっと追っていかうと考えています。3つめは、感染症の問題です。これは、20年ほど前に「南信」新聞でスペイン・インフルエンザの記事を見つけたことから関心を持ち、それから細々と史料にあたっているものです。

飯田下伊那の地域史研究は、分厚い研究史を持っています。先人が残してくれた成果に薄皮一枚でもつけ加えられたらと考えています。また、地域の歴史を知る上では、そこに住む方々との協力が重要です。地域の方々と共に学びを深めていけるよう微力ながら力をつくしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



出会い直し、学び直す

多和田 真理子（國學院大學／歴史研究所顧問研究員）

かつて読んだ本をもういちど手にとると、以前にはよく理解できなかったことが、深く心に染み入ってくる、ということがある。その間に積み重ねた経験や環境の変化が、対象世界との再びの出会いや学びをもたらしてくれるのかもしれない。

2003年、飯田市歴史研究所の開設期に関わらせていただき、私は地域教育史の研究に足を踏み入れることになった。それから20年間、正直なところ、歴史研究にずっと打ち込むことができたとはいえない。生活の中でさまざま立ち現れる目の前の課題をこなすのに精一杯で、歴史研究所の活動にもあまり関わらず、集めた史料データを眠らせたまま、だいぶ時間が経ってしまった。

最近やっと落ち着いて、地域史・教育史に関する文献を読み、史料をていねいに読む時間が増えてきた。昔よりも、文献や史料に描かれている世界と具体的に向き合い、深く読みこんでいる気がする。以前は文面を情報としてしか捉えておらず、「学び」といういとなみを生きることの一部として考える視点が不足していたと思う。目の前のことに翻弄されつつ経験を重ねるうちに、人が生きる、くらすということについて、少しでも想像力を磨くことができたのなら、生きることそのものが研究の深化につながっているようでうれしい。

私がこうして細々とでも教育史研究を続けてこられたのは、歴史研究所とのつながりがあったからだ。飯田下伊那という地域やそこにくらす人々のいとなみに密着しながら、専門性をもって歴史研究を継続的に行う歴史研究所が、私に史料との新たな出会いや学びをもたらしてくれた。そもそも研究活動というのは多かれ少なかれ、こうした出会い直しや学び直しの繰り返しなのではないか。

歴史研究所が、これからも多くの人にとって〈研究＝出会い直しと学び直し〉の場となるよう願うとともに、私も微力ながらその活動に寄与できればと思う。

第20回 飯田市地域史研究集会予告

飯田下伊那の学制と地域社会「人づくり」から「人なる」へ

9月9日 土・10日 日 会場：飯田市役所

1日目は、飯田下伊那における学びの歴史を、近代の学校の登場に注目しながら議論し、2日目は、地域や学校の歴史を記録して未来へ継承する、様々な今の取り組みを紹介します。これらを通して、人びとの学びをめぐる地域と学校の関係について考えます。このほか、自由論題報告も行います。

■講演：木村 元さん（青山学院大学）

■報告：坂下 力さん（竜丘小学校）

田添 莊文さん（竜丘小学校開校150周年記念誌編集責任者）

田中 雅孝（歴史研究所調査研究員）

多和田 真理子（國學院大學／歴史研究所顧問研究員）

遠山 善治さん（下伊那農業高校創立100周年記念誌編纂委員長）

松島 高根さん（高森町役場）

■自由論題報告：伊藤 悠さん（東京大学大学院生）

春日 宇光（飯田市教育委員会）

ワークショップを開催します

「研究者アーカイブズと地域史研究」

7月6日（木）14:30～17:00 会場：飯田市公民館（ムトスぱらざ） 大会議室A

歴史学研究者に関する貴重なアーカイブズの調査・保存・活用と、地域史研究との関わりについて検討します。啓静文庫（故山口啓二・静子ご夫妻のアーカイブズ）、および飯田・下伊那における地域史研究者アーカイブズを素材に、その意義や保存・活用について考えます（報告者は交渉中）。詳細は歴史研究所にお問い合わせください。

飯田アカデミア2023

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。

第99講座 ドキュメンタリーが記録した満州移民

講師 ^{てづか たかのり} 手塚 孝典さん (信越放送ディレクター)

会場 飯田市公民館 (ムトスぷらざ)
2階多目的ホール

日時 6月24日(土)

第1講 13:30～15:00 「満蒙開拓の残像 ～国策と棄民の戦中戦後史～」

第2講 15:20～16:50 「東アジアからの問い ～中国帰国者と朝鮮人満州移民の声～」

講師より

20年にわたるドキュメンタリー制作で出会った人々との対話を手がかりに、満州移民の歴史に視点を置くことから、現代社会が抱える課題や歪みを読み解いていきます。

第1講では、河野村開拓団の悲劇を村長・胡桃澤盛の日記と体験者や残された人々の証言でたどるとともに、原発事故後の福島に戦後開拓地を訪ねた取材を振り返り、繰り返される国策の過ちと棄民の構図や背景について考えます。

第2講は、戦後の日本が遠ざけてきたアジアから見た満蒙開拓に焦点をあてます。中国帰国者の視点で戦後社会を問い直し、日本が支配する朝鮮から送り出された朝鮮人満州移民の知られざる苦難の歴史を証言と史料をもとに検証することから、現代の日本社会の底流によむ思想や精神性を探ります。

第100講座 人生百年時代の生き方を歴史に学ぶ

講師 ^{こばやし ちえこ} 小林 千枝子さん (作新学院大学名誉教授)

講師より

日時 7月22日(土)

第1講 13:30～15:00

「人生百年時代の「高齢者」の内実」

第2講 15:20～16:50

「人は死ぬとどこに行くのか」

7月23日(日)

第3講 9:00～10:30

「歴史のなかの青年1 伊那自由大学をつくった青年たち」

第4講 10:50～12:20

「歴史のなかの青年2 岡山の農民自治会運動」

人生百年と言われます。私たちは高齢者として30年余り生きる可能性のある時代に生きています。その内実を具体的にとらえ、大きくは高齢者の自己実現を図る生き方を提案したいと思います。また、人は誰でもこの世の生を終える運命を背負い、多くの場合、親の死に続いて自分自身の死をも意識します。そうしたことを「千の風」や柳田国男の『先祖の話』を手がかりに考えます。2日目は、百年前の日本農村に目を向けます。庶民＝農民と言ってもいい時代で、現代と違い、いわゆる若者や青年は学校教育に取り込まれていませんでした。義務教育は小学校の6年間だけでしたが、農村に生きる若者たちの学習意欲には凄まじいものがありました。その例として、自由大学運動と農民自治会運動を取り上げます。

会場 飯田市役所 C棟 3階会議室

■申込み：①会場での受講 ②ご自宅等でのオンライン受講 のどちらかでご参加いただけます。

第99講座… 会場 6月22日(木)、オンライン 6月15日(木)

第100講座… 会場 7月20日(木)、オンライン 7月11日(火) までに

電話、FAX、メールのいずれかで、受講される講座、受講場所、電話番号をお知らせください。

※オンライン受講は郵便番号と住所もお知らせください。

■資料代：500円 ※高校生以下無料

歴研ゼミ&ワークショップ6月・7月の予定

会場：歴史研究所 研修室

新年度
受講生募集!!

近世史ゼミ

担当：羽田真也(研究員)

6月14日・28日／7月12日・26日

(第2・第4水曜日) 18:30～20:30

満州移民研究ゼミ

担当：本島和人(調査研究員)

齊藤俊江(調査研究員)

第137回 6月3日／第138回 7月1日

(第1土曜日) 10:00～11:40

近現代史ゼミ

担当：田中雅孝(調査研究員)

6月24日／7月22日

(第4土曜日) 10:00～11:40

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

6月7日・21日／7月5・19日

(第1・第3水曜日) 19:00～21:00

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670

開所時間：午前9時～午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日
メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: iihr@city.iida.nagano.jp まで